

イジュの開花習性について

1. イジュについて

イジュ (*Schima liukuensis*) は奄美諸島から沖縄県の西表島にかけて分布しており、ヒマラヤ、中国南部、インドネシアから日本までの広い分布域を持つ有用な造林樹種であるヒメツバキ (*Schima wallichii*) の変種とする見方もあります。沖縄県では精英樹36本が選抜された重要な造林樹種です。

西表熱帯林育種技術園(以下、技術園)では、これまでに自然受粉系統による試験地の造成や人工交配技術の開発を実施してきました。

ここでは、人工交配等に関連する情報を得るために行った、イジュの開花習性に関する調査結果を紹介します。(写真1)



写真1 イジュの開花の様子

2. 調査方法

調査は技術園内で、2014～2016年迄の3開花期について行いました。調査個体数は調査年によって異なりますが、34個体から48個体です。調査は数日おきに個体毎の開花数を計数し、表1に示した開花指数に当てはめました。

表1 開花指数

指数	開花数
0	0
1	1～10
2	11～20
3	21～50
4	51～100
5	101～200
6	201～500
7	501以上

3. イジュの開花期間

イジュの開花期間は、年によって異なり、調査年によっては年に数回開花しました。各調査年で最も長く開花した期間は、43～73日間と大きく異なり、その開花開始は4月9～27日、開花終了は6月8～20日の間でした。図1に調査年毎の開花指数の合計値の推移を示しました。

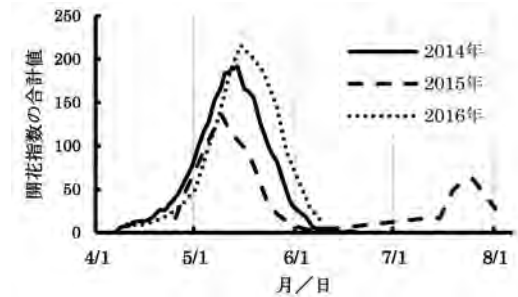


図1 調査年毎の開花指数の合計値の推移

4. イジュの開花のピーク

開花指数の合計値が最も高かった日は、2014年、2015年及び2016年の順に5月16日、11日及び16日でした。開花した個体数が最も多い日は、調査年により異なるものの、5月11～23日の間でした。また、開花個体数が最も多い調査日には、全ての調査年で全個体の80%以上が開花していました。これらのことから、技術園内のイジュの開花のピークは、5月中旬頃と思われました。

その他に、各開花指数の個体数の構成は調査年によって、大きく異なりました。例えば、各年度の開花指数の合計値のピークの日には、101以上開花した個体が全調査個体に占める本数割合は25～68%と大きく異なりました。

5. おわりに

この調査で得られた知見は、イジュの効率的な人工交配計画の立案や採種園の設計等に活用できると考えられます。

また、イジュの人工交配等に関連する一連の技術開発でこれまでに蓄積された知識と経験は、ヒメツバキなど近縁種も含めた海外との育種技術協力にも応用できると考えられます。

(西表熱帯林育種技術園 千吉良 治)